

令和6年度 3年 社会科 年間指導計画・評価計画

1. 目指す生徒像

学年末の到達目標「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。」

『知識・技能』 社会的事象の特色や相互の関連を理解し、諸資料を適切に選択し活用することができる。

『思考・判断・表現』 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断し、適切に表現することができる。

『主体的に学習に取り組む態度』 社会的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し考えることができる。

2. 評価方法

観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	授業ノート 提出課題 定期テスト 小テスト	授業ノート 提出課題 定期テスト 小テスト	授業ノート 提出課題

3. 年間指導計画・評価規準

月	単元	時数	学習活動	①	②	③	評価規準（おおむね満足できる B）
4	第3節 明治政府による「近代化」の始まり	4	富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革を取り上げ、近世から近代への転換のようすを、近世の政治や社会との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できる。	○	○	○	①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。 ①歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。 ②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。 ③学習を通して、欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出などについての関心を高め、意欲的に追究して近代の特色を捉えようとしている。また、欧米諸国における近代化についての関心を高め、近代という時代の特色を考えて、自分の言葉で表現しようとしている。
	第4節 近代国家への歩み	4	欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会のようすや人々の生活が大きく変化したことがわかる。	○	○	○	③学習を通して、社会の変動や欧米諸国の接近によって幕府の政治が次第に行き詰まりをみせ、対外政策を転換して開国したことについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。
	第5章 帝国主義と日本	4	条約を改正し、欧米諸国と対等の外交関係を樹立しようとした人々の努力に気づく。 大陸との関係に着目させ、日清・日露戦争に至るまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを扱い、日本の国際的地位が向上したことを理解する。	○	○	○	③学習を通して、明治維新による近代国家の形成についての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。また、近世から近代へと移り変わる社会のようすに関心を高め、近世と近代の違いやそれぞれの時代の特色を考え、自分の言葉で表現しようとしている。 ③学習を通して、近代国家を形成しようとする時期の国際情勢や自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色

5	<p>第6節 アジアの強国の光と影</p>	4	<p>富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎が固まったことがわかる。</p> <p>近代産業が飛躍的に発展したころ、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことがわかる。</p> <p>鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことがわかる。</p> <p>伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代の文化が形成されたことがわかる。</p>	○	○	○	<p>を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。また、近代国家の形成に大きな役割を果たしたと考えられる人物について自ら進んで調べ、発表している。</p> <p>③学習を通して、条約改正や日清・日露戦争、日本の国際的地位が向上していったことなどについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。また、条約の改正で大きな役割を果たしたと考えられる人物について自ら進んで調べ、発表している。</p> <p>③学習を通して、我が国の産業革命とこの時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとしている。また、身近な地域の近代化遺産や鉄道開通時のようすを意欲的に調べて、近代の産業の特色を捉えようとしている。</p>
5 6	<p>第5章 近代(後半)</p> <p>第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き</p>	5	<p>ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことに気付くとともに、日本の参戦、ロシア革命なども取り上げて、世界の動きと日本との関連に着目し、大戦がその後の国際情勢に大きな影響を及ぼしたことがわかる。</p>	○	○	○	<p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。また、「民主主義」というキーワードをもとに、さまざまな歴史的な事象との関連を意欲的に追究して、近代の特色を捉えようとしている。</p>
6	<p>第2節 高まるデモクラシーの意識</p>	4	<p>第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことがわかる。</p> <p>国民の政治的自覚が高まり、本格的な政党内閣による政党政治が展開したこと、普通選挙制が実現したこと、米騒動をはじめ、労働運動、農民運動、社会主義運動などの社会運動が幅広く行われるようになったこと、女性の社会的進出が進んだことなどがわかる。</p>	○	○	○	<p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、第一次世界大戦が我が国の政治や経済に与えた影響、国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。また、「民主主義」というキーワードをもとに、さまざまな歴史的な事象との関連を意欲的に</p>

	<p>第3節 戦争に向かう世論</p> <p>第4節 第二次世界大戦の惨禍</p>	<p>4</p> <p>5</p>	<p>世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化、我が国の経済の混乱と社会不安の広がりを取り扱い、政党政治が行き詰まりをみせ、軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したこと、中国との戦争が長期化した経緯を理解する。</p> <p>日本がドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカ合衆国、イギリス、そして終戦直前に参戦したソビエト連邦などとの大戦になったこと、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、我が国の国民も大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付く。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>に追究して、近代の特色を捉えようとしている。</p> <p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦が始まるまでの我が国の政治・外交の動きなどについての関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとしている。</p> <p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、第二次世界大戦中の我が国の政治・外交の動き、戦時下の国民の生活などについての関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の大切さを考えようとしている。また、身近な地域における空襲の被害や戦時下の生活状況を、進んで調べるなどしている。戦争の惨禍を理解し、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であるという自覚を高めている。</p>
<p>6</p>	<p>第6章 現代</p> <p>第1節 敗戦から立ち直る日本</p>	<p>4</p>	<p>戦後の混乱の中で、国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に、日本国憲法の制定をはじめとして大きな改革が次々に進められ、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力し、現代の日本の骨組みが形成されたことがわかる。</p> <p>国際連合の発足、米ソ両陣営が対立して冷戦が始まっ</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、新しい日本の建設についての関心を高め、意欲的に追究して現代の特色を捉えようとするとともに、国際協調の大切さを考えようとしている。また、戦後の混乱や生活のようす、国民の努力に関する具体的な事例を調べたりまとめたりする活動を通して、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付き、現代の特色を捉えようとしている。</p>

	<p>第2節 世界の多極化と日本の成長</p>	5	<p>たこと、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、我が国の動きと関連させながら理解する。</p> <p>我が国における産業・経済や科学技術の著しい発展とそれに伴う生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、及び石油危機が経済に及ぼした影響などがわかる。</p> <p>沖縄返還、日中国交正常化などを取り扱い、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解する。</p>	○	○	○	<p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、経済や科学技術の急速な発展と国民生活の向上などについての関心を高め、意欲的に追究して現代の特色を捉えようとするとともに、国際協調の大切さを考えようとしている。また、現在の自分たちの生活との深いつながりに気付き、関連が深い事柄を進んで調査したりまとめたりしながら、現代の特色を意欲的に追究しようとしている。</p>
	<p>第3節 これからの日本と世界</p>	4	<p>世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことに気付き、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助などに着目し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解するとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつ。</p>	○	○	○	<p>①学習を通して地図や写真資料などから適切なことがらを読み取っている。歴史的な事象を理解し知識を身に付けている。</p> <p>②学習を通して、資料に基づき思考を深め、判断したことを適切に表現している。</p> <p>③学習を通して、国際社会における我が国の役割の増大などについての関心を高め、意欲的に追究して現代の特色を捉えようとするとともに、国際協調の大切さを考えようとしている。また、国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助など、日本が果たすべき役割と政府等が行っている活動について意欲的に調べたり、自分の考えをまとめたりしている。</p>
7	<p><公民的分野> 第1章 私たちの暮らしと現代社会</p>	12	<p>地理や歴史で学んできたことをもとに、私たちの暮らしや考え方に生じてきたさまざまな変化や影響を確認する。</p> <p>○現代の社会をどのようにとらえ、未来をどのように生きていけばよいかを考える。</p>	○	○	○	<p>①現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。また、人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。</p> <p>②対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>

9 10	第2章 個人を尊重する日本国憲法	17	憲法を学ぶにあたり、その根底にある個人の尊重という考え方の大切さに気付く。 憲法とは何か、なぜ憲法を学ぶ必要があるのかについて興味・関心をもつ。	○	○	○	①日本国憲法が、個人の尊重という価値観を基礎に成り立っていることを理解している。 ②個人を尊重するという考えについて、日常の具体的なできごとと関連付けて考察し、表現している。 ③個人の尊重と法の支配の重要性に着目し、自分の生活と関連付けて憲法を学ぶ意味を自らに問い、理解しようとしている。
10 11	第3章 私たちの暮らしと民主政治	22	議会の傍聴を通して、身近な暮らしと政治との関わりについて考える。 民主主義という考え方のもつ意義や特徴を理解し、身近な暮らしの中で果たしている役割に気付く。	○	○	○	①身近な地域の課題を解決する役割を担う人々について調べることを通して、民主主義の考え方について理解している。 ②議会の傍聴や視聴などを通して、身近な暮らしと民主主義を関連付けて考察している。 ③議会の傍聴や視聴をきっかけに、自分の生活と関連付けて、民主主義の考え方や民主政治の意味について問い、考察しようとしている。
4 5 6 7 9	第4章 私たちの暮らしと経済	17	経済社会における「分業」のもつ意味について、具体例をもとに考える。 ものを交換することの意義や、その際に貨幣の果たす役割に気付く、身近な暮らしと経済活動とのつながりへの関心を高める。	○	○	○	①分業をすることが生産性の向上をもたらすこと、貨幣を通じて生産物を交換していることを理解し、経済活動は一人一人が関わり合って成立していることに気付く。 ②生産物の交換に貨幣が使われることの意義や効率性について、物々交換との比較で考察し、説明している。 ③身近な生活の中で経済活動がどのような意味をもつのかについて、「分業と交換」という視点から、主体的に学習していく見通しをもっている。
10 11 12	第5章 安心して豊かに暮らせる社会	8	生まれてからこれまでの私たちの15年間の暮らしは、どのように営まれてきたのかを理解する。 これからの人生においては、どのような支えが必要になっていくかを考える。	○	○	○	①「出産・育児」「保育・教育」「医療」の視点から、中学校3年生にいたるまでに平均的に使われている費用を理解し、まとめている。 ②これまでの15年間で自分が受けてきた公的な支援を踏まえながら、これからの人生においてどのような支援を受けるかを考察し、自分の言葉で表現している。 ③私たちが安心して豊かに暮らしていくために必要なことはどのようなことか、「希少性」（資源の分配のあり方）の観点をもって、主体的に学習していく見通しをもっている。
1 2 3	第6章 国際社会に生きる私たち	13	国際社会が抱えている課題を捉え、「持続可能」な社会の実現に向けた取り組みが国際社会に求められていることに気付く。 国際社会に存在するさまざまな課題を学び、その解決	○	○	○	①酸性雨や大気汚染、オゾン層の破壊、海洋汚染、森林減少など、人間が関与した地球環境問題は「持続可能な開発目標（SDGs）」の17の目標の何に当てはまるか調べ、持続可能な発展に向け世界が協調して進める意義を理解している。 ②先進国と発展途上国など国家間や地域間により、持続可能な発展に向けた意見や考えの違いが生まれる理

			に向けて自分なりに取り組んでいくことの意義について考える。			由を、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③持続可能な開発目標の達成や地球環境問題の解決に向け、国や地域、個人がすべきことについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に、主体的に取り組もうとしている。
2 3	終章 私たちが 未来の社会を築く	4	日本国憲法の平和主義に関する理解を深め、我が国の国際貢献のあり方について考えるとともに、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。 持続可能な社会を形成するという観点から、わたしたちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求し、自分の考えをまとめることができる。		○ ○	②社会的な思考・判断・表現 社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。